



Title	一、札幌農学校期の大学昇格運動（一八九八～一九〇七年）
Citation	北海道大学百五十年史, 資料編一, 1-42
Issue Date	2024-03-29
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/92907">http://hdl.handle.net/2115/92907</a>
Type	bulletin (article)
File Information	shiryohen_1_p1.pdf



[Instructions for use](#)

一、札幌農学校期の大学昇格運動

(一八九八—一九〇七年)



## 札幌帝国大学設立の必要を論ず

一八九八年六月二十六日

札幌農学校学芸会編『札幌農学校』

## 第四章 札幌帝国大学設立の必要を論ず

生物進化の大勢は顕然として蓋ふ可らず。社会は一種の有機体なり。十九世紀の文明は古来世界文明史か未だ嘗て達する能はざりし頂点を窮めたりき。而かも文明進化の大勢は此十九世紀を以て目的の彼岸と為さず。今より数年を出てすして二十世紀生れんか、世界の舞台は旧世紀を伴て一転し去り、文明は新舞台に立て將に大に活動すべし。而して文明活動の日は平和的生存競争の最も激烈なるの秋なり。然りと雖も文明の為す所は必しも善ならず。人類の平和は遂に戦争を尽滅する能はず。人種の競争は益其度を高むべく老国の分裂は一掬の涙を受けざらん。然り、強は弥暴威を逞うし、弱は益々塗炭に苦まん。今や文明の東漸と共に、東洋の天地は世界大勢の渦輪中

に捲込まれ、人目集注の焼点と為り、二十世紀文明の活動場と化し去りぬ。此時に際し帝国々民たるもの、耐忍奮励し、富強の実を挙げて以て国家百年の長計を建てざる可らず。

我北海道の如き、北門の鎖鑰として魯国と相對峙し、其間僅に一葦帯水を隔つるのみ。帝国の為めには極めて重要な位置を占む。単に軍備の上より云ふも、速に拓殖の功を奏し、経費を本土に仰がずして以て兵力及經濟の獨立を期せざる可らず。況んや此地沃野千里、地積は優に六百余万の人口を容るべく、地味は正に二千万石の米穀を産するに足り、鉱脈は無尽蔵の石炭を産し、山林は無数の良材を出して以て内地の商工業を扶け、帝国無二の富源となるあるに於てをや。或人曰く現今の如き歩調を以て進まば、北海道拓殖の完成せらるゝの日は將に明治七十一年にあらんとすと、嗟果して斯の如くんば、何ぞ其遅々たるの甚しきや。繁忙なる二十世紀の三十箇年は、実に十九世紀の一百年にも価せん。此に於てか北海道に對するあらゆる政策を究め、積極的の大方針を確定

し、以て帝国の安寧福利を進めんことを勉むるの必要起る。

国家要素の一は国民なり。国民は個人の集合より成り、個人は教育に依て治る。教育にして完全ならざらんか、個人知識なし、個人にして知識無けんか国民振はず、国民にして振はざらんか、国家は貧弱を免かれず。故に教育は実に国家を治むる所以の一なり。夫れ教育は恰も山林を造るに等しく、区々たる目前の小計を願みることなく、悠然遙に永遠の收穫を期せざる可らず。殊に新開地の教育に至ては頗る忽諾に付すべからざるものあり。新開地たるや、進取の氣象に富み、磊落有為なる青年の多数を見ると同時に、又天下各種浮浪無頼の徒の流集し来る塵埃場にして、一朝管理を怠らんか、汚習風を為し、悪弊俗を造るに至らん。新開地教育の目的としてはかゝる弊害を未発に防がが為め、遍ねく普通教育を施し、或は新地の富源を開発し、国家の柱石として新地の情態を改進するに堪ふべき人材を養成せんが為め、高等の教育を授くる大学を設備せざる可らず。二十余年前、黒田

伯が本道に札幌農学校を設立せし所以のもの、大に茲に見る所ありたればなり。人或は曰はく、普通教育の必要は則ち可なり、而かも高等教育の必要を説くに至りては、機の未だ熟せざるを如何せん。如かず、帝国大学の養成せる人材を誘ひ来りて、以て北海道の柱石たらしめんにはと。嗟是れ殖民の何たるを解せざるの論なり。夫れ北海道の事業たる、何れも草創に属し、其経営の困難なる実に内地人の予想外に出づ、深く愛土の精神ありて、百折不撓、千挫不屈、以て事に当るに非ずんば奚ぞ克く其功を収む可けんや。此種の人材は之を他郷の客將に求む可らず、須く其土の設備にかゝる大学か養成したりし健男子ならざる可らず。何となれば後者は永く其土の新空氣を吸ひ、其土の山川氣候に慣れ、愛土の念、有為の心、他に比して大なるものあればなり。且つ北海道は内地と頗る風土を異にするを以て、此地の開拓者を養成せんには、須く此地特有の學術を授くる大学の組織あらざる可らず。例へば牧畜学の如き、或は水産学の如き、或は殖民制度の如き、之を府県に於て教授せんよりは、札幌に

於て研究せしむるの利あるに如かず。又農學に於ても、本道は津輕海峡以南の農業を其儘採用すべからざるを以て、勢ひ本道に農業教育の機關を備へ、以て北海道の農學を授けざる可からず。若しも北海道にして高等教育を授くべき完全なる機關備はらざらんか、移住者は何を樂んでか子弟を携へて遠く此土に航せんや。彼の魯國なるもの西比利亜を治むるに際しては、大学の必要を感じ、現にトムスク、イルクツク等に存立するものは、多数の教授と學生とを有し、盛に西比利亜拓殖の羅針盤として、文化の種子を播きつゝあるに非ずや。彼の米國は内地拓殖に於ては、世界の龜鑑たるべき國なり。而して其為す所を見るに、移住者來住して少しく數を為すに至らば、則ち大學を新地に建設し、以て高等教育を移民に布かんことを勉むるに非ずや。現在合衆國に存在する各州の公立大學 (Universities and Colleges.) を合算せば、其數實に四百八十一校、學生十一萬三千七百七十二人、教官八千四百五十九人を以て註せらる。豈亦大なる數に非ずや、而して大學の數を以て現在人口六千二百六十万

を除すれば、大約十三万人となる。即ち彼國にては十三萬の人口に対し一大學を有する計算なり。但し以上諸大學中には、課程低くして我國の高等学校に類するものもなきに非らざれど、兎に角此數を以て米國人が拓地殖民の一政策として大學の設立に重きを置く所以を知るべきなり。(大學の統計は、總て千八百九十七年發刊「ステデー」ツマンズ、イヤーブック」に拠る。以下當高し。)

世界第一流の強國たる英國は、自ら其版図内に日輪の没するを知らざるまで、兩半球の各要所に屬國を有するものなり。而して其新地に殖民を為すや、亦大學の設立に重きを置かざるはなし。彼れ英國は其本國に於て、既に八「ユニヴァーシティー」十九「カレッジ」を有し、千四百七十五人の教官と、二萬七千三百二十八人の學生あり。以て新開地に人材を輸出する機關は充分之を備へながら、而かも其殖民地に於ては、至る處大學の設備あらざるはなし。即ち英領印度に在ては、カルカッタ、マドラス、ボムベイ、パンヤブ、アラハバッド、等五所に各完全なる「ユニヴァーシティー」を有し、別に「カレッジ」と稱するもの其數實に百五十五、學生殆んど二萬に達す

と云ふ。而して眇たるセイロン島の如きすら、尚一個「ローヤル、カレージ」あるを見るなり。又西部亜非利加シラ、レワネと称する殖民地は、面積僅かに四千方英里、人口七万四千八百三十五人、此内白人二百二十四人を保つに過ぎずと雖も、尚「フォース、ベ、カレージ」と称する高等教育機関を有し、以て着々拓殖の功を奏しつゝあるに非ずや。此他英国はケープ、コロニーに於ては、一「ユニヴァーシティー」五「カレージ」あり。カナダには十六「ユニヴァーシティー」、二十四「カレージ」、ニュー、サウス、ウエールズには、一「ユニヴァーシティー」、一「カレージ」、南洋のニュー、ジラントには、二「ユニヴァーシティー」二「カレージ」あり。南濠洲には、一「ユニヴァーシティー」あり。タス、マニヤ島には、一「ユニヴァーシティー」十四「カレージ」あり。ヴ井クトリヤには「メルボルン、ユニヴァーシティー」及若干の「カレージ」あり。此他仏国の如き、独乙国の如き、其本国に其殖民地に、許多の大学を有すること、猶英国の現状の如し、嗚呼何ぞ其れ盛なるや。大國の基礎を永遠

に建つる所以のもの一に此に在るか。然りと雖とも大学の、設備は独り此等大國の専有する所にあらず。国力の程度より論ずるも、又人口面積の数より云ふも、我帝國より遙に遜色あるの邦にして、而かも尚ほ大学の設備普き事白耳義、西班牙の如きあり。彼白耳義は四「ユニヴァーシティー」百十五「カレージ」を有し、西班牙は十「ユニヴァーシティー」及多くの「カレージ」を備へ、殖民地には各々高等教育の機関あること、吾人敬服の外なし。彼の伊太利の如きは国力に於ては我と伯仲し、人口面積に於て、共に我帝國の後にありながら、而かも二十一の有名なる「ユニヴァーシティー」を有し、教官九百七十八人、学生二万四千四百七十八人あるに非ずや。国力微々として振はず、人口僅かに我の十分の一を保つに留り、列強國か齒牙にも掛けざる彼の瑞典國の如きすら、尚ほウブサラ及ルンドに二個の「ユニヴァーシティー」あり、一は千四百十一人、他は六百十三人の学生を有す。又諾威國の如き、人口僅かに我の二十分の一に過ぎずと雖ども、尚ほ学生千四百十二人を保てる一大学をクリスチアナ府

に有せるに非すや。

翻て我帝国高等教育の普及如何を見るに、官制に於て大  
学と称し得べきもの、東京帝国大学、及京都帝国大学の  
二あるのみ。我札幌農学校は程度に至ては大学の資格を  
具備すれども、未だ他の分科大学あらざるの故を以て、  
「ユニヴァーシティー」と称する事を得ず、又海軍大学校  
と云ひ、陸軍大学校と呼ぶも「ユニヴァーシティー」には  
非ざるなり。若し我邦を以て支那朝鮮に比する時は、我  
学政は大に誇稱するに足るべしと雖ども、之を吾等が現  
在及将来の大競争者たる欧米諸国に比し来れば、何んぞ  
其軒輊の甚だしきや。東洋の盟主、世界の第一等国を以  
て任ずる我帝国にして、如何ぞ斯くの如くなる可けんや。  
然りと雖も、此上我国の或地方に大学を設備するの必要  
なる事は、既に識者の間に定論あり。京都帝国大学に次  
ては九州又は北海道の孰れにか「ユニヴァーシティー」の  
建設せらるべき事は疑ふべからず。而して熊本帝国大学  
を先にせんか、或は札幌帝国大学を初めにせんかは、教  
育家及政治家の熟慮を煩はすべく、吾人の敢て喋々を要

せざる所なり。吾人は単に「ユニヴァーシティー」を起す  
に当り、此地の現状に就き、思考せざるべからざる主要  
なる三点を左に掲げんとす。

一、前説に論せる如く、北門の鎖鑰たる此新開地に於て、  
拓地殖民の実功を奏せんには、大学の設備最も必要な  
り。

二、札幌農学校は巨万の基本財産を有し、十幾年の後に  
は、優に經濟の獨立を期すべし。かゝる鞏固なる基礎  
を有する鬻舎を中核として漸次他分科大学を増加し、  
以て「ユニヴァーシティー」とせんは、經費に於て莫大  
の節減を得べく、又事業に於ても更に頗る便利なるも  
のあらん。

三、東西を問はず、古今を論せず、北方人種の強健慍悍  
ならざるはなきなり。北海道の地たる沃野千里に連り、  
至る所巨嶽大河あり。西比利亚の寒野より吹き来る颯  
風は、雪を飛ばし喬木を倒して以て健兒の体を鍛ひ、  
北極より流れ来る氷山は、巖を砕き波濤に激して以て  
青年の神を練る。巨楡の森々たる、広原の漠々たる、



共に内地人の想像に「だにも」及ばざる所、境遇の人物に及ぼす影響にして果して大なるものならしめば、此間に薫陶せらるゝものにして体軀虚羸、薄志弱行なるは稀ならん。且つ北海道は四隣寂寞として、学生の誘惑に価するもの尠く、外に出てゝ交る所は独り雄渾なる天然あるのみ。是れ北海道に大学を設立するの適當なる所以なり。

此三主因あり。以て論者は帝国に起るべき大学中、其一是札幌帝国大学なるを主張するなり。然らば我札幌農学校が「ユニヴァーシティー」と化し去るは向後幾年にあるか、謂ふに多年を要せざるべし。而して各分科の如きは、本道の必要に応じて順次増科さるべければ、先づ工、医、理科を起して現在の農科に加へ、法文科の如きは比較的後期に設立せらるゝならん。

今此論を閉つるに当り、吾人をして更に次の一言を加へ、而して本論の結尾たらしめよ。曰く教育の精神は須く世界的たらざるべからず。教育に党派なく、又人種血族なし。教育に藩閥なく、又仇邦敵国なし。仮令北海道拓殖

上の政策よりして、札幌帝国大学を起すと雖も、教育家の精神に至ては独り北海道と云はず、宜しく日本全国を裨益することを思はざる可からず、否又日本全国に留らず、汎く世界を教育し、将来東西文明史に尠からざる影響を与へん事を予期せざる可らず。夫れ一国教育の中心は必しも其政治的中心と一致せず。米國第一流の大学は、必しも華盛頓に在らずして、多くニユー、イングラント、ステーツに在り。英國第一流の大学は、必しも龍動に在らずしてラクسفールド、ケンブリツジ、エヂンバラにあり。其他列強有名の大学は、必しも其首府に在らずして、反て偏僻の地に多き所以のもの、教育の中心と政治の中心とは、相一致するを要せざるを見るに足らん。吾人は信ず、我北海道は実に学問の地たり。未だ二十世紀の中葉に至らざるに、嶄然として頭角を顕はし、東洋の北極星と成り、學術の効果を遠近東西に領与するの日あらんことを。

一〇〇二

一八九九年四月二十三日、五月一、七、十一日付け

宮部金吾宛て佐藤昌介書簡

一八九九年四月二十三日、五月一、七、十一日

宮部金吾旧蔵書簡

拝啓 出発之際ハ色々御配慮難有奉拝謝候

昨廿二日着京仕候今朝ハ早朝より奔走樺山大臣二面会仕候明朝三重県より四国地方迄巡視相成候ニ付取急得面会

好都合ニ御座候本年夏北海道巡視且卒業式ニ臨場ヲ願出候処七月十日帝國大学卒業式ニ付其後ナレバ都合相付可

申旨被申聞候七月十五日頃迄延期仕候事ヲ得ハ大臣ノ臨場ヲ得候大臣ノ帰京ハ来月十日頃ニ有之夫迄ニ延期シ

テ大臣ノ臨場ヲ待ツヤ否意志ヲ決定仕置候必要有之候間御意見御申越被下度大臣面会后上田専門局長樺山秘書官

ニも面会右等打合置候間至急御意見承知仕度候上田局長も出張出来可申旨申居候

大学案ハ上田局長賛成仕居候ニ付小生携帯ノ分差出置申

候

次官ニハ本日面会仕兼申候寺田氏ニハ面会久留氏ハ訪問候得共未タ不在ニテ面会不仕候

留学生ノ一件ハ一名丈シカ只今仲間入出来不申留學費有之候も人員ニ限ラレ<sup>「マ」</sup>デ乍残念出来不申上田局長ハ二名派

出主張セルも行ハレス定員ヲ増シテ百名トナスベキ内議有之ニ付其際ハ他ノ二名ヲ入ル、コトトナスベキニ付夫

迄可待旨懇々咄合有之高岡氏ノ如キ不満ト推察候得共不

得止候間暫ク忍耐致呉候様御序御懇話置被下度大臣出張ニ際シ右之決定不日夫々発表相成可申甚タ残念ノ次第ニ御座候

農學博士会も小生在京中開会ト相成可申充分尽力之心得ニ御座候

文部省内ハ先ツ大学案景氣宜敷様ニ有之此上尚々運動ノ必要大ニ有之不日同窓重立タル人会合ノ事ニ昨夜早川氏

ト相談且鈴木大亮氏ニも面会相談仕候今朝ハ早朝より二人曳ニテ東西駆廻リ漸ク右丈ノ功程ニ

了何分雨天統ニテ困難ニ有之候

右不取敢要用迄

草々不乙

四月廿三日

佐藤

宮部殿

拝啓

校務色々御配慮拝謝此事ニ御座候

本日農学博士会召集出席員玉利氏其他ノ在京者会長ニハ

玉利氏選挙ニ当リ急ニ議事規則ヲ決シ博士候補者選挙ニ

取懸リ候処酒匂、南ノ両氏全会一致ヲ以テ推選ノ事可決

仕候間御同慶被下度候

昨夜三縁亭ニテ玉利、横井、本田、恒藤、沢野、早川、頭本、

山下、斉藤、渡瀬并小生懇親ノ為め会合仕候渡瀬氏ノ為

め尽力候得共事行ハレス残念仕候

去ル廿七日同窓重立タル人并鈴木男爵ヲ招待シ本会(同

窓会)ノ使命ヲ果シ申候

博士会ハ秘密会故 Detail ハ不申上共可然候

卅三年度概算ハ一両日中ニ提出ノ筈右相済み候ハ、小生

ハ帰任可仕候

大臣ノ帰京ヲ待候積ノ処遅引十日後ト申候故次官ト大臣

ノ出張(北海道)ニ付キ協議大臣江電報伺出仕度存居候

須田氏ノ辞令ハ本日差立ニ相成候管殖民部長江御協議先

方ノ囑托報酬八月額式拾円ニ減額ノ事ニ御取斗相成度候

大学案ハ次官局長江差出置申候然ニ仙台ニ於て県知事ハ

大学運動ヲナシ農科大学ヲ第一着ニ置ク案ヲ相立候由ニ

テ式今年ヲ経テ菊池其他江設計囑托ト相成候ニ付何トカ

札幌案ト協議ヲ遂げ候様仕度菊池熊太郎氏より申入有之

居候

頃日当地同窓重立タル人トノ協議ニハ卒業式ニ当リ大臣

局長ヲ札幌ニテ実地巡視帰京候上ハ同窓ノ運動ヲ致様仕

度

第一按—大学按

第二按—独立ノ分科大学

第三按—  
駒場ヲ第一農科大学

札幌ヲ第二農科大学

東京帝国ニ属シテ

右ノ三按ニテ運動可致旨協議致し居候

小生大臣ノ帰京ヲ待タザルトキハ来ル六日出立帰任仕度  
大臣ヲ待ツコトニ致せば五月中旬過キトナラザレハ帰任  
出来申間敷ト存居候右要事迄

草々不乙

五月初一

佐藤生

宮部殿

再伸

留学生ハ定員ヲ廢シテ予算ノアル丈ハ年々派遣出来ルコ  
トニ致候時ハ本年度中ニ於て札幌より尚ホ一名（一名ハ  
既決）派遣スルコト局長話合居候

本日電報正ニ拝授又々中学校長ニ関スル貴書も拝見仕候  
今朝園田長官ニ面会之心得ニテ出向候処臥蓐中（病疾之  
為めニ）依テ横山ニ模様承り候処大窪、松木、矢島ノ三  
人高等視学ノ相談ヲ受け候処大窪及松木ハ謝絶矢島ノ意  
向ハ未タ分り兼居候旨申居候ニ付若し視学ニ転任ナラバ  
候補者優力ノも差出可申候旨申居候長官ニも其意ヲ相

通し候事ニ打合置申候横山より矢島ノ意向ヲ問合せ候事  
ニ相成居申候由学生ニ関スル事ハ其不当ヲ昨日本省ニテ  
申出置候右ハ海軍省ト文部省トノ關係即チ主計専門官ヲ  
高等商業ニ於テ養成スル際学生云々ノ事起り候ニ因セル  
由専門局長ノ意見ニテハ高等学校已上ノ生徒ヲ凡テ学生  
ト称スル事ニ改めテ差支之レナカルベシト意見ヲ申居候  
概算も今明日中ニ出来可申其上ニテ小生ノ出発ヲ相決シ  
可申候多分大臣ノ帰京迄（十五六日）滞京可仕候大学運  
動ニ対シテハ先ツ道庁ノ教育關係者、教育会、北海道協  
会、民間ノ有力者、政党者、農学校連一同能ク協議一致  
ノ活動ヲナスコト甚た必要ト存候四国其他ニテ高等学校  
之競争烈敷大臣ノ優対至ラザル所ナキ由北海道ニ於ても  
此外充分ノ運動ヲ要し申候

起工式ハ六月初旬ト存シ候寺田、久留、中條（新任ノ札幌  
在勤ノ技師）ノ三氏打揃ふテ出張可仕其頃北海道教育  
会も相開け候由大窪氏ト打合せテ一行ヲ款待仕度存居申  
候

高等視学官ハ四十余名新任之都合ニテ目下人撰中ノ由札幌

幌出身ノ中学校長より人ヲ挙げ候様仕度一兩日中ニ普通  
学務局長江出向キ候心得ニ御座候

前条ノ仕合ニテ小生も中々帰任致し兼困却候仕合併し肝  
要ノ事柄ノミ故辛防可仕卜存居候

高等工学科 (四学年)

農芸化学科 (四学年)

獣医科 (尋常三年より入学シテ三学年)

右ノ学科課程至急予算上入用有之候間御編製ノ上新井江

宛御郵送被下度候

頃日駒場江出向キ候結果農学ノ教官ハ宣言都合宜敷相運

ひ大慶仕居候

右要事迄草乙

五月七日

宮部殿

佐藤

拝啓

過日来電報ヲ以テ御申越有之候通小生も大臣ノ帰京ヲ待

受候事ニ決定仕候予算ハ再昨日登省之上説明仕置候去ル

月曜日(八日)正式ニ提出済みニテ学科表ハ附属スベキ  
モノニ属シ候総額ハ十弍万余円ト相成外之設備費及移築  
費ハ拾万円ニ有之候

塚田氏ノ履歴ハ久留氏江差出置申候採用ノ事ニ相成可申  
卜奉存候間久留氏より炭鋳連江問合候節ハ宜敷回答有之  
候様希望仕候

学生称呼之義ハ本省ノ出入之度其不当ヲ鳴し居申候高等  
商業学校長ヲ訪問シテ如何処分スルヤト問合候処平然ト  
シテ更ニ意ニ介セザルモノ、如ク別ニ申出ヲナサ、ル趣  
向ト相見得申候官制ノ改正迄ハ調査中ニ属スルモノトシ  
テ別段伺出申間敷ト奉存候校則ハ文部大臣ノ認可ヲ与ひ  
タルモノ、ミ改正ノ令達ナキ已上ハ無論其儘タルベク又  
タ学士称号ノ如キ現然其特典ヲ受け居候モノニテ決シテ  
消滅等可致理由無之専門局長江申入置候

大学運動ハ前途稍見上有之事ト存候杉浦、辻、諸氏ノ如  
キも賛成ヲ表し居候矢島ノ後任ハ鶴崎忠本動力又由岡モ  
寒国ニハ身体虚弱ノ為め任ニ堪へヌ由何人ヲ赴シテ可然  
ヤ判断仕兼居候文部大臣ハ本日岡山着、明日ハ滞在セラ

ルベク十五六日頃ハ着京相成可申ニ付大臣江面会を得候

上帰任可仕候故廿日前後ニ出発可仕事ト相成可申候

森林科主任教官ハ幸ニ適任者ト協議相調ひ大慶仕居申候

学科課程も右林学士ノ意見ヲ聞合せ候上多少訂正可致候

間右等承知被下度候

渡瀬氏落選ノ為メ在京評議員中ニ異議ヲ生シ候得共多数

ヲ占められ居候場合如何トも力ノ及ふ所ニ無之無余議事

情申述置候

卅日登省ノ節石田康人ノ上申書ハ提出仕置候須田ノ任命

延期ハ又々長野県江本省より問合せ候為メニ御座候申も

甚しキ次第ニ御座候

右要事迄草々不乙

五月十一日

宮部殿

本日農商務山林局江出頭候処御令兄ニ偶然林野整理局ニ

テ御面会仕候

一一〇〇三

有志より文部大臣宛て北海道帝国大学設立建議

一八九九年六月三十日

『北海道毎日新聞』

○建議書 北海道大学設立に付有志者より文部大臣に捧呈する建議書は左の如くにて之に第二面記載の予算を添へたり

北海道帝国大学設立建議

北海道民某等謹て書を文部大臣伯爵樺山資紀閣下に呈す伏て惟みるに叡聖文武なる

今上皇帝陛下維新中興の初北地開拓の策を垂問あらせられ次て国郡を画し職司を置き拓殖の国是を定め教化を敷かれ玉ひしより茲に三十年爾来本道は

陛下の聖徳と官僚の精励とに由り草莽刈られ荆棘断たれ人文開かれ物産興され某等今日

聖代に謳歌し以て静に子孫を掬育するに足るの新樂土たるに至れり而して今や某等敢て閣下の考慮を煩はし

閣下の英裁を仰かざる可らざるものあり何ぞや曰く北海道帝国大学設立の事はなり聞く閣下全国の教育機関を拡張し以て大に斯業を振作せられんとし所謂八年経画を以て東京都両大学の外更に九州及東北の地を撰て大学を興し併せて幾多の高等学校を各地に建設せられんとすと此企図や固より国家の大計長策にして某等の深く賛する処なりと雖も本道亦其設立の急を告ぐるものあり然れども未だ不幸此議あるを聞かず依て其理由の一二を陳し謹て閣下の採納を仰かんとす

抑も本道拓殖の事業は漸く其緒に就きしか如しと雖も細かに全部の事情を觀察せは寧ろ既往にあらずして将来に属するもの多きを知るべし而して拓殖事業の好果を収めんと欲せは宜しく先つ高等教育の設備をなし學術技芸の進歩を謀り有為の人材を養成して以て利用厚生<sup>〔5〕</sup>の途を講し広く道民に自然的教化を与へざるべからず彼の露国か西比利亜を開拓するや大学を興して先づ人物を養成し移民を招き其永住の念を起さしめ米國か新國領地を開くや人口未だ多からざる間に大学と図

書館とを設けて其精神的開拓を勉め英國か濠洲其他の殖民地を治むる亦此手段を採れり思ふに本道開拓の当初札幌農学校の設立を見たる亦此意旨に外ならざるべく而して本道農業か他府県の旧慣を脱して新機軸を出すに至りたる所以のものは同校の主として直接間接に裨益したるものにして其の拓殖に貢献せし偉績は亦世人の熟知せる処なり

夫れ然り然りと雖も本道は独り農産物の改良進歩を以て満足するものにあらず或は海産物に或は鉱産物に或は製造物に其他社会全般に各種の専門技術家を要する豈他府県に譲らんや必ずや工理医法文等の諸分科大学を興し以て農科と相俟ち本道か要望する人材の養成を勉めざる可らず況んや本道の現況尋常中学を卒業し尚ほ学に志すものは遠く筈を負ふて他道に赴かざる可<sup>〔5〕</sup>ちす是を以て空敷小成に止まるの已むなきを歎する者あり豈痛惜の至りならずや而して中学の如き亦今日の如く単に函館札幌の二校に止まらず各所到的処設立を見んとし其卒業者の年々益々多きを加ふるに於てをや

閣下若し幸に親しく本道の地を踏まは本道の氣候と天然とか如何に大人物を出すに適應せるものあるかを見ん氣候の寒冷なるは青年の身体を鍛ひ精神を練るに適し山野の広濶大樹の鬱蒼たるは人物の品性に偉大なる影響を与ふること尠しとせず其風土の教育に適應する点より論すれば帝國<sup>國</sup>熟れの地か本道の右に出づるものあらんや札幌は北緯四十三度四十分になり歐洲各地有名なる諸大学は大低北緯五十度以北になり米國に於ても亦多く新英蘭<sup>蘭</sup>主に存する所以のもの氣候と修学との關係を証明するものにあらずや

聞く九州の人士は大学を設けられんか為めに其敷地と金五十万円を寄附し東北の人士は敷地と金三十五万円を寄附せんとすと本道草創日尚淺く未だ自治の行政機關を有せず加ふるに富豪少く以て九州及東北の例に慣ふこと能はざるを憾む然りと雖も本道に大学を設備することは極めて容易にして之を九州及東北に設くるの困難なるに似ず何となれば閣下の識らるゝ如く札幌農学校は既に農科大学と同一の資格を備へ且つ巨万の基

本財産を有して収入年に加はるのみならず第十三議會に於て校舍改築を議決し今年度より其工事に着手せり故に今之をして一步を進め直に北海道帝國大学と為し札幌農学校を農科大学と改称し別に工科理科医科文科等を逐次増設し以て高等教育機關を完成せしめば其費す所少くして効果の大なるものあるを信すればなり加之是等校舎の敷地は亦札幌農学校所有地の内余裕あるに於てをや是れ某等の本道に大学設立の急を訴ふる所になり而して大学の新設と共に本道に高等学校を設置するの必要は亦某等の喋々を要せざる所なり冀くは閣下某等の微意を了察し某等の建策を容れ上は聖天子北地開拓の大猷を補弼し奉り下は本道人民の希望を満足せしめられんことを某等頓首再拜



札幌農学校改築起工式

一八九九年八月二十三日

『学芸会雑誌』第三十号

○札幌農学校改築起工式 本校は去る十三日校舍改築起

工式を挙行せり今其景況を記さん当日の式場位置等を記

さん改築位置は札幌区北八条西七丁目以西借楽園の北

方にして敷地の総面積殆んど十萬坪又た当日の式場は該

敷地内南端元の競馬場此柵内凡そ二萬坪其中央より少し

く西に片寄り設けられたり午前十時第一鐘は響き渡りて

各学生々徒肅々式場に入りて整列斯て三十分を過ぎて第

二鐘は鳴り来賓一同案内せられて式場に入り各設けの席

に就けるか場の正面祭場は九尺四方に新土を盛り其四隅

に遠々祝ふ奈与竹を挿し建て注連引き延へ其中央に八鳥

の机代を据え上に天津神籬を建て前に供饌の八足三脚を

置けり而して祭官は白野札幌神社宮司以下八名にして和

楽人三名鼓笛を吹奏せられ第三鐘は鳴り渡りて茲に地鎮

祭式は初まれり第一神官前進祓処に於て禊祓ひの式を行

ふ次に白野宮司前進降神の辞を白す次に供饌此間奏楽次に

白野宮司祝詞を奏し玉串を奉りて拝礼次に寺田文部書

記官佐藤校長湯地商議員総代各玉串を奉り拝礼次に南教

授職員総代大塚高等文官総代児島高等武官総代富所区民

総代農学生総代等順次拝礼

〔中略〕

次に佐藤校長前進左の式辞を朗誦す

明治中興 聖上万機を親裁し玉ふに方り首として輔弼

の臣僚を徴し蝦夷開拓の策を垂問あらせられ尋て旧称

を改め職司を置く茲に初めて朝廷百年の国是を北疆に

樹つ厥皇猷の偉大なる之を仰げば愈高矣爾来歲月を経

ること茲に三十年国権頻りに外に張り憲政大に内に整

ひ本道拓地植民の事業も亦益顕はる国家の慶事なり

伏して念ふに置使の初め黒田開拓長官

聖旨を<sup>覆</sup>斉し先づ学政を伸暢し人才を育成するを以て本

道拓殖の要務となし是に於てか明治九年を以て我札幌

農学校を興し日新の學術格致の技芸を究むるの所とな

し之を闡明推広して以て本道農業の發達進歩に資し開明成務の大成を期せんとす以来各方の俊才笈を負て斯校に來り学び其業を卒へたるもの今日實に數百名の多きに達し而して其本道拓殖の業に於て貢獻せる亦尠しとせざるなり又以て聊か本校設定の主旨に副ふものあるを信ず然り而して之を内外の現勢に鑑るに學術技芸の發達進歩は駿々乎として駟馬に鞭つが如く其止る所を知らず殆と天地の秘蘊を探り造化の妙技を奪ひ皆以て人生の利用に供ふ豈益々學芸の涉を企図せずして可ならんや況んや本道拓殖の趨勢は益々有物の新秀を期待するもの多きに於ておや我政府夙に此に見るあり既に我札幌農學校の擴張を計り新に校舎を増築するの議を提起し帝國議會の協賛を経るに至る詢に美事と謂はざるを得ず輒ち茲に本日を下し初夏薰風の裡緑翠滴るの蔭貴賓の貢臨を辱ふし新築校舎起工の式典を挙ぐることを得不肖昌介職を本校校長に承くるを以て同僚諸氏及學生生徒等と共に此式典に列することを得たり何等の幸栄か之に若ん畢竟其今日あるを致せしもの職と

して文部当局者を始め本道文武諸官其他有志諸賢か平素本校に同情を表せられたるの厚きに由るは勿論又我同僚諸氏の日常職務に忠実なるにあらずんば焉ぞ今日あるを得んや

想ふに我國運の伸張は向後益高等教育の必要と天才の輩出を待つや切なり本校愈進て他日の大成を期し上は聖旨の深遠恩眷の優握に對ひ奉り下は萬民の囑望諸賢の厚意に應ふる処あらんを期す爰に起工式を挙ぐるに當り感嘗措く所を知らず一言を陳して代辭と為す

明治三十二年六月十三日

札幌農學校校長從五位勲六等農學博士佐藤昌介

次に總代人富所広吉氏區民を代表して祝詞を朗誦し次に學生安東義喬氏本校學生生徒を代表して祝文を朗誦せり斯て徹饌白野宮司前進昇神の辭を白して爰に式は閉ぢられたり此時十一時五十分第四鐘は響き渡りて來賓一同は食堂に饗応を受け後ち各自随意に農園内に廻覽午後一時過ぎ全く退散したるが当日の來賓は無慮三百余名にして實に未曾有の盛式なりしかば當区の武林及び信伊奈の写

真館は特に人を派し其實際を撮影せしめたり

一〇〇五

### 札幌帝国大学設立案

一八九九年頃

「札幌帝国大学設立案」(三七七・一/サ、札幌市中  
央図書館蔵)

#### 札幌帝国大学設立ノ旨趣

熟ラ札幌農学校設立ノ起原ヲ按スルニ明治初年黒田開拓  
次官北地経営ノ

御下問ニ奉答シタル将来学ヲ興シ皇化ヲ布クノ必要ナル  
ヲ以テス云々ノ語ニ濫觴シ再来連綿トシテ我国農学校ノ  
先鞭者トナリ時世ノ急ニ応シ聖化ヲ扶殖シタルハ世ノ知  
ル所ナリ輓近ニ至リ拓殖ノ盛運年一年ヨリ進ミ高等専門  
ノ学ニ就カント欲スルモノ続出スルト同時ニ一般學術ノ  
上進スル氣勢ニ伴ヒ依然札幌農学校ノ現状ニ安ンスル能  
ハサルノ世運トナリシハ所謂ル学ヲ興シ皇化ヲ布クノ時  
ニアラスヤ於是今日ノ農学校ヲ札幌帝国大学トナシ大ニ  
其規模ヲ伸張シ以テ益聖恩ノ普及ヲ図ルハ国家ノ急務ナ

リトス左ニ其旨趣ノ梗概ヲ記ス

一 札幌農学校ノ学科程度ヲ東京帝国大学農科大学ニ比

シ毫モ軒輊アルナシ

二 大学組織ニ變更スルニ当リ既ニ多年ノ素地アルヲ以テ之ヲ新設スルモノニ比セハ多額ノ費用ヲ要セサルノ利アリ其細目左ノ如シ

一 第十三帝國議會ハ札幌農学校新築ヲ可決シ五ヶ年ノ継続事業トシテ將ニ着手セントス然ラハ之ヲ大學ト為スモ之レカ為メ別ニ多クノ校舎ヲ新築スルノ要ナシ

二 札幌農学校ハ書籍器械標本等今日ヲ以テ完備シタリトハ云フ可ラサルモ創設以來既ニ二十年ノ星霜ヲ經過シタレハ其設備ニ於テ之ヲ新設スルモノニ比セハ大ニ經費ヲ減スルノ便アリ

三 札幌農学校ハ巨額ノ基本財産ヲ有シ特別會計ノ制トナシ年ヲ追フテ其収入ヲ増加シ校運ノ隆盛ト相待テ之ヲ維持發達スルノ基礎既ニ成レリ

四 札幌農学校ハ広大ナル敷地ヲ所有スルヲ以テ向來

学校ノ規模拡張スルモ新ニ敷地ヲ購入スルノ費用ヲ要セス

三 北海道ノ地ハ最モ帝国大学ヲ置クニ適當ナルヲ信ス学生ノ健康ヲ保チ風紀ヲ維持シ政論ノ紛擾ヲ避クル等皆内地府県ノ地方ニ見ル可ラサルノ利アリ且ツ之ヲ外国ノ実例ニ徵スルニ隆盛ノ大学ハ多ク都市ニアラスシテ閑雅幽靜ノ地方ニ存スルハ適マ以テ本道ノ帝国大学建設地ニ可ナルヲ知ルニ足ラン

四 帝国大学ヲ札幌ニ置クトキハ拓殖ノ政策ヲ翼賛スルノ功大ナリトス夫レ拓殖ノ業拳ルニ從ヒ工芸技術ノ士ヲ待ツ益切ナリ実業家ハ必ラス専攻者ノ施設方法ニヨリ実地ニ学理ヲ応用スルニアラサレハ日進月歩ノ今日ニ処スル能ハサルヤ明ケシ而シテ其人士ヲ養成スルハ高等ノ学科ヲ修メシムルノ機関タル大学ニ依ラサル可ラス然ラハ則チ拓殖ノ政策トシテ札幌ニ大学ヲ設クルハ国家ノ事業トシテ避ク可ラサルノ急務トス凡ソ衣食住ノ余賫ヲ存スルモノハ執力其子弟ノ教育ヲ思ハサル者アランヤ移住民中高等教育ヲ受

ケシメント欲スルモノハ先ヅ意ヲ茲ニ致シ後年ヲ顧念スルモ大学ノ設置ナキトキハ子弟ヲシテ再ヒ学ニ府県ニ就カシムルノ不便アリ遂ニ移住ヲ遲疑セシムルノ遺憾ナシトセス然ルニ札幌ニ大学ヲ見ルニ至レハ此疑惑ヲ去リ甘シテ此土ニ安スルノミナラス有為ノ青年北望群ヲ為シ相率ヒテ来リ北海道ヲ視ル故園ノ如キ心意ヲ養成セン且ツ露國ノ西比利亞ヲ統治スル米國ノ国有未開地ヲ拓殖スル其他英仏独各国ノ諸殖民地ニ於ケル皆必ラス先ツ其地ニ大学ヲ起シ教育機關ヲ備ヘ大成ヲ遠永二期シ教化墾成相待テ有終ノ美ヲ収ム真ニ國家ノ長計ヲ知ルモノト謂フ可シ

以上列記スル所ハ大学利益ノ梗概ニ止マルモ思ヒ半ニ過クルモノアラン更ニ大学ヲ完成スル学科ノ順序ヲ略記セ

ハ

## 第一農科大学

### 第一農学科

#### 第一部 農学科

農学全般ノ教育ヲ施シ併セテ北海道特殊ノ農学ニ

関スル学科ヲ授ク

### 第二部 農芸化学科

農産製造ノ業比年勃興セントスルノ氣運ニ向ヒタレハ斯学ヲ専攻スル人士ヲ養成スルコト益急務ナリ

### 第三部 畜産学科

畜産学ノ本道ニ必要ナルハ論ヲ待タズ本邦未タ斯学ヲ修攻スル者尠シ而シテ世運ハ益其必要ヲ促シテ止マス本分科ヲ置ク所以ナリ

### 第二林学科

東京帝国大学既ニ林学科ノ設ケアルモ未タ世ノ急須ニ応スルニ足ラス況ンヤ本道林政急ナル適當ノ人材ヲ養成シテ他日ノ計ヲ為サ、ル可ラス是レ本分科ヲ置ク所以ナリ

## 第二工科大学

### 第一土木工学科

道路橋梁治水港湾等其必要一日モ忽カセニス可ラス復タ説明ヲ要セス

## 第二採鉱冶金学科

本道ノ諸鉱物ニ富ム世ノ夙ニ知ル所輒近採鉱業大ニ  
進歩シ専門ノ士ヲ待ツヤ急ナリ本科ヲ置キ大ニ富源  
ノ開發ヲ資ケント欲ス

右ニ学科ノ整頓ヲ待チ電気工学機械工学ヲ増置シ益

工業ノ發達ヲ助長セント欲ス

次ニ農工ニ分科大学ニ直接ノ關係ヲ有スル理科大学ヲ置  
キ玄理ヲ研鑽シ前記ニ分科大学ト併行セシメテ大成ヲ期  
セント欲ス蓋シ是等分科大学ハ此彼相待テ效果ヲ収ムル  
モノナレハ同一ノ地ニ設置スルハ授業并ニ經費ノ点ニ利  
スル所大ナレハナリ其学科配置ハ相互ニ農工ニ分科大学  
ニ關係アルモノヨリ左ノ順次ニヨリ開講ス

農科大学ニ対シテハ動物学、植物学、地質学、化学

工科大学ニ対シテハ物理学、化学、地質学

札幌帝国大学ニ速成科ヲ附属セシムルノ旨趣

大学ヲ置キ学理ノ幽玄ヲ研究スルノ必要アルト同時ニ農  
学一般ノ学理ト実用ニ通シ世需ノ急ニ応スルノ速成科ヲ

置キ之ヲ大学ノ附属トスルハ頗ル本道目下ノ事状ニ適ス  
ルモノトス且ツ学ニ志スモノ必ラス皆高等専門ノ技芸ヲ  
修ムル能ハサルノ事情ナシトセス此輩ヲシテ志望ノ一端  
ヲ成サシメ実地ニ応用シ精粗相通シ深淺相扶ケハ斯学ノ  
研究ヲ助成スルノ一端タルニ庶幾カラシ歟農芸科ノ設ケ  
アルヤ既二年アリ其効益人皆之ヲ知ル林学速成科ハ本年  
九月ヨリ開始スルノ準備ナレハ大学成立ト同時ニ畜産速  
成科獸医速成科ノ二科ヲ設ケルハ拓殖ヲ翼成スルノ急務  
タルヲ信ス

札幌帝国大学予科創設旨趣

札幌帝国大学ノ設立ヲ企画セハ勢ヒ高等学校ヲ札幌ニ設  
クルハ自然ノ趨向ニシテ其必要此彼ノ間庭徑アルナシ乃  
チ札幌農学校今日ノ予修科ヲ以テ高等学校ノ設備トナシ  
当分札幌帝国大学ニ附属セシムルモノトス且ツ其学科ハ  
現今ノ各地高等学校ニ於ケル第二部ニ属スル科程ト同一  
ノ教授ヲ施サント欲ス

組織及經費予算説明概要

- 一 農科大学ノ組織及經費ハ別紙甲号ノ通ニシテ明治三十三年度ニ成立スルモノトシテ起案ス但シ初年度ハ多少予算ヨリ減殺スルコトヲ得ヘシ
- 二 農工二分科大学ノ組織及經費ハ別紙乙号ノ如シ工科大学ハ明治三十四年度ニ於テ大学組織ニ成立スルノ予算トス但シ此成立ニ伴フ臨時歳出ハ明治三十三年度ヨリ支出ヲ要ス
- 三 農、工、理三分科大学ノ組織及經費ハ別紙丙号ノ如シ明治三十六年度ニ於テ理科大学成立スルノ予算ナリ但シ之ニ伴フ臨時歳出ハ明治三十五年度ヨリ支出ヲ要ス

四 大学予科ノ組織及經費ハ別紙戊号ノ如シ明治三十三年度農科大学設立ト同時ニ成立スルモノトス但初年度ニ於テハ多少予算ヨリ減殺スルコトヲ得

〔後略〕

一〇〇六

北海道帝国大学設立に関する札幌区会意見書

一九〇〇年一月三十一日

「区会決議録 明治三十三年」(二〇一三一—一八二七、

札幌市公文書館蔵)

札幌区会議録第三号

自明治三十三年一月二十九日  
至本年一月一日

一月三十一日午前十一時二十五分開午後五時五分開

〔中略〕

十四番「花村三千之助」其以前ニ帝国大学設立ノ件委

員会ノ結果ヲ報告シマス則チ委員会ノ起草シタ

ル開申書ヲ朗読シタイ

書記開申書ヲ朗読ス

北海道帝国大学設立ニ関スル意見書

札幌農学校ヲ拡張シテ北海道帝国大学ト為スコトハ学政上経済上及ヒ拓殖上皆ニ国家ノ利益ナルノミナラズ当区直接ノ利益タリ因テ本会ハ貴職ニ於テ宜ク当区ヲ代表シ要路ノ各官並ニ貴衆兩議院ニ建白請求シ其他關

係各部ニ交渉シテ速ニ其目的ヲ貫徹スルノ期ヲ得セシ  
メラレンコトヲ希望ス

十四番 此意見書ニ就テハ理事者ニ於テ相当ノ手續アラ

右北海道区制第六十条第三項ニ依リ意見開申候也

議長 委員会ノ起案ニ意見ナキヤ

議長代理

(異議ナシト呼ブ者多シ)

明治三十三年一月三十日

大井上輝前

議長

満場異議ナケレハコレニ決シマス

札幌区長対馬嘉三郎殿

[後略]

北海道帝国大学設立ニ関スル意見書

北海道庁長官閣下当区会ハ曾テ久シク区民ノ熱望セル  
北海道帝国大学設立ノ件ニ付本日別紙写ノ如キ意見書  
ヲ区長へ提出スヘキコトヲ議決セリ惟フニ此件タル国  
家問題ニ属スルガ故ニ独リ当区ノ微力ヲ以テ能ク其目  
的ヲ達シ得ベキニアラズト雖トモ今ヤ幸ニ閣下ノ在ス  
アリ事区ノ公益ニ関スル頗ル大ナルヲ以テ敢テ之ヲ閣  
下ニ致シ単ニ将来ノ助力ヲ仰カンコトヲ切望ス  
右北海道区制第六十条第三項ニ依リ意見開申仕候也

議長代理

明治三十三年一月

大井上輝前

北海道庁長官男爵園田安賢殿



衆議院宛て札幌農科大学建議案

一九〇一年三月十八日

北海道大学期成同盟会『北海道帝国大学論集』

(一九〇二年七月)

札幌農科大学建議案

札幌農学校を農科大学となすの件は曩に政支会に於て決定し三十四年三月十八日西原清東氏より右建議案を衆議院に提出せしが左に其全文を掲ぐ

札幌農学校を以て農科大学となす様政府は速に其計画を立てられんことを望む

理由書

我国に於て高等教育機関増設の必要あるは多弁を要せず聞く政府は昨年本院より提出したる建議に基き東北及九州に帝国大学を増設せんことの計画ありと果して然らば本建議の趣旨を以て其計画中に加へ札幌農学校を以て東北大学の分校となすに於ては経営設備上尠からざる便宜

あることを信じ札幌農学校の学課目及其程度は之を東京帝国大学農科大学の学課程度に比較して殆ど優劣なく教授講師中には博士三名学士廿一名を有し尚ほ本校教職に充つるの目的を以て現に海外留学を命せられたる者数名あり而して明治十三年以来卒業生を既に十八回二百六十四名工学士十六名に達したるの事実あり故に之を農科の一分科大学となすも唯其名称を改むるに止らず著しく設備の変更と経費の増加を要する事なく主として其組織に於て予修科修学年限二ヶ年なるを三ヶ年とし本科の修学年限四ヶ年を二ヶ年に短縮し前者を以て全然高等学校の程度とするときは総修学年間を更改せずして容易に大学の制度となすことを得るなり猶遠からずして基本財産収入増加の結果は本道経費一切の自給独立をなし得べき見込みあるが如き等は是れ本校の特色とする所にして前途最も有望有益の学校と認む其他北海道拓殖民の上より論ずるも大学を設置し以て富源開発の基礎を強固ならしむるは国家の進運を計るに於て極めて大要なりと信す故を以て政府は必要あるときは更に他の分

科大学を設置するの方針を執り漸次完全の域に達せしむる様画策せられんことを望む是れ本案提出の要旨なり況尋常中を学卒業し尚ほ学を志すものは遠く笈を負ふて他〔学を〕国に赴かざるべからず是を以て空敷小成に止まるの已むなきを嘆ずるものあり豈痛惜の至りならずや而して中学の如き亦今日の如く単に函館札幌の二校に止まらず各所到處設立を見んとす其卒業者の年々益々多きを加ふるに於てをや又本道の氣候及地勢とは実に有為の人物を出すに於てをやるあるなり氣候の寒冷なるは青年の身体を鍛ひ精神を練るに的し山野の広潤樹木の鬱蒼たるは人物の品性に偉大なる影響を与ふること少しとせず其風土の教育に適する点より論すれば帝国何れの地か本道の右に出つるものあらんや札幌は北緯四十三度四十分あり歐洲各地有名なる諸大学は大低北緯五十度以北〔マイ〕にあり米國に於ても亦多く新英蘭洲に存する所以のもの氣候と修学との關係を証明するものにあらずや

然り而して本道に大学を設備せんとするは極めて容易にして之を九州及東北に設くるの困難なるに似す何となれ

は札幌農学校は既に農科大学と同一の資格を備へ且つ巨万の資本財産を有して収入年に加はるのみならず第十三議会に於て校舎改築を議決し三十二年度より其工事に着手せり故に今之をして一步を進め直ちに北海道大学となし札幌農学校を農科大学と改称し別に工科理科医科文科等を逐次増設して以て高等教育機関を完成せしめは其費す所少なくして効果の大なるものあるを信ずればなり加之此等校舎の敷地は亦札幌農学校所有地の内余裕あるに於てをや是れ某等の本道に大学設立の急を訴ふる所以なり

右請願仕候也

札幌農学校を大学と為すの建議案に関する衆議院議事

一九〇一年三月二十三日

〔第十五回帝國議會衆議院議事速記録第十九号〕

札幌農学校ヲ大学ト為スノ建議案（西原清東君外十二名提出）

（委員長報告）

○井上角五郎君（百四十一番） 議長

○議長（片岡健吉君） 井上角五郎君

〔井上角五郎君演壇ニ登ル〕

○井上角五郎君（百四十一番） 札幌農学校ヲ大学ト為スニ就イテノ建議、此建議ニ附キマシテノ、特別委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、特別委員會ハ異議ナク之ヲ可決致シマシテゴザイマス、殊ニ西原清東君ヨリ詳シキ説明ヲ聞イテ、其内容ヲ十分承知スルコトガ出来マシタ、札幌農学校ノ現在ヲ申シテ見マスト云フト、別段長イコトハ申上ゲマセヌガ、現在ヲ申シテ見マスト云

フト、是マデノ校舍ガ千七百七十八坪アル、ソレカラ今新築中ノ校舍ガ四千六百三十四坪アル、随分大キナ建物デアリマス、ソレカラ現在ノ財産ハ田畑ガアリ、山林ガアリ、原野ノ開墾スベキモノ、既ニ開墾シタルモノガアリ、又多少ノ公債モ持ツテ居リマシテ、一年ノ収入ガ現在ガ三万円、今後十年ヲ期シテ自然ト入来ル金ガ十万円——年二十万円ニ充テルコトガ容易デアルト云フ、又学科ハ如何ヤウデアアルカト云フト、高尚デアッテ帝國大学ト等差ハナイ、唯彼ハ専門デアッテ深い、是ハ稍々広イ学科ニ涉ルタメニ、広クハアルガ、深クハナイト云フ違ハアルケレドモ、要スルニ既ニ出タル所ノ農学士ガ二百六十四人ゴザイマス、工学士ガ十六人、其中博士モアレバ立派ナ人物モアッテ、相当ニ世ニ知ラレテ居ル者モ多イ、然ルニ又別ニ予修科ガアッテ、此大学即チ農学校ノ現在ノ学科ト予修科ト云フモノヲ少シ取捨テ加ヘレバ取モ直サズ高等学校ト大学ノ仕組ニスルコト容易デアル、唯今ノ此農学校ノ入費ハ幾ライルカト云フト、五万九千円位掛ツテ居ル、大学ニシテ幾ライルカト云ヘ

バ七万円、其内既ニ三万円ノ収入ガアレバ、大学ニスル  
經常費ノ補足ハ些少ナルモノデアアル、前ニ申ス如ク校舎  
モ十分ナモノガ建ツテ居リマスカラシテ、器械購入其他  
ニ凡ソ七万円、若シ更ニ建築スルト云フコトニナレバ  
七万円、都合十四万円ヲ加ヘレバ、立派ナ大学ニスルコ  
トガ出来ル、今ヤ政府ニ於テモ、亦議會ノ希望スル所モ、  
東北ニ於テ一ノ大学ヲ設ケルコトヲ希望シテ居ルノデア  
ルカラ、政府ニ於テモ其意ヲ容レラレテ、東北大学ガ出  
来ルコトデゴザイマセウガ、若シ東北大学ガ出来ル日ニ  
至ツタナラバ、此札幌農学校ハ東北大学ノ分校トシテ、  
農科大学其他ノ学科ヲ設ケタイト云フ、是ガ建議ノ趣意  
デゴザイマス、委員会ニ於テハ一歩進デ、東北大学ノ必  
要ハ既ニ認メテ居ル、政府モ必ズ此計画ヲ成スデアラウ  
ガ、東北大学ノアルコトヲ吾々ハ望ミ、其速ナルヲ望ム  
ト同時ニ、其事ニ拘ラズ殊ニ札幌農学校ナルモノヲ一ノ  
大学ニセラル、ト云フコトノ、必要ヲ認メルト云フ意味  
ヲ以テ、建議ノ趣意ニ加フルニ、一層其急ヲ要スルト云  
フ趣意ヲ以テ、可決致シマシテゴザイマスル、是ダケノ

コトヲ御報告申シテ置キマス

〔賛成々々〕ノ声起ル

○議長（片岡健吉君） 委員長報告ノ通御異議ハアリマ  
セヌカ

〔異議ナシ異議ナシ〕ノ声起ル

○議長（片岡健吉君） 御異議ガナケレバ其通決シマス  
〔後略〕

北海道帝国大学設立に関する北海道会建議

一九〇五年十二月一日

『北海タイムス』

▲建議第十八号

一、北海道帝国大学設立に関する建議

北海道に帝国大学を設立し農工医理の四分科を設けられんこと望む（内務大臣宛）

（理由） 本道拓地殖民の事業を完成せんと欲せば必ずや高等教育機関の設備を完ふし學術技芸の進歩に俟たざるへからざるや論なし願ふに明治三十二年本道有志者は札幌農学校を農科大学に改められんことを当局に建議し次に札幌区会北海道教育会等亦之を建議せり而して一方貴衆両院に請願する所あり北海道帝国大学設立は夙とに本道の輿論たり

第十五回帝国議会の開かるゝや衆議院は道民の請願を納れ之を政府に建議したりき当時本道民は窃に其希望

を達するの遠からざるを期待せり爾来今日に至り未だ其設立を見るに至らず蓋し是れ当局は其設立を必要と認むるも時局多事之行ふの機を得ざるか為めならん乎然れども今や日露戦争局を眺め本道戦後の経営として企画経営すべきもの尠からず此時に当り本道牧音改〔音改〕良移民授産等に関し人材を要する愈々急ならんとす之れ這般速に大学の設立を切望する所以なり而して之を設立するの順序は先づ現在の札幌農学校を農科大学に改め漸次他の諸分科大学を増設せらるゝを得は之を行ふに易くして其益を見る最も速かならん冀くは本道皆輿望のある所を諒察し特に採納せられんことを切望す之れ此建議を提出する所以なり

一〇一〇

水産学科附設に関する衆議院予算委員第一分科会議事

一九〇六年二月二日

〔第二十二回帝国議会議院予算委員第一分科会（外務省司法省及文部科学省所管） 會議録（速記） 第四回〕

會議

明治三十九年二月二日午前十一時十五分開議

〔中略〕

明治三十九年度歳出歳入総予算案（文部省所管）

○主査鳩山和夫君 開会致シマス

○政府委員福原鏡次郎君

〔中略〕第六項ノ札幌農学校水産学教室実験室新営費、是ハ札幌農学校ニ水産ノ学科ヲ附設シヤウト云フ、新シイ一ツノ仕事デアリマス、

此水産ノ学科ト云フコトニ付イテハ、昨年議会カラモ高等教育機関ヲ設ケナケレバナラヌト云フコトニ付イテ御建議モアリマシタ、政府ニ於キマシテモ、水産教育ノタメニ、相当ノ施設ヲスルコトハ、此際極メテ必要ノコト、

考ヘマス、然ルニ札幌農学校ニ之ヲ附設スルト云フコトハ、先ヅ經費ノ上ニ非常ニ便利デモアリマスシ、又土地ノ点カラ申シマシテモ、北海ノ漁業ト云フモノハ、随分將來有望ナモノデアルト云フコトハ無論デアル、場所ニ於キマシテモ相当デアル、殊ニ札幌ニハ文部ノ農学校モアリマスカラ、此農学校ニ水産科ヲ附設シテ、水産教育ヲ置イテ、此所デ始メルコトニシヤウト云フコトデ、札幌農学校ニ水産教室等ノ新営費ヲ要求致シマシタ訳デアリマス、〔中略〕

○川原茂輔君 札幌農学校ニ水産科ヲ置ク事ハ、農商務所管ニ水産講習所ガアリ、六万八千余円ヲ支出シテ居ルノデ、之ヲ拡張スレバ差支ナイト思ヒマスガ如何デスカ、嘗テ札幌農学校ト駒場農学校トアツテ卒業生ガ衝突シタ事モ聞イタガ、是等ヲ考ヘルト水産講習所ヲ拡張シ、學術実地共ニヤツタ方ガ宜イト思フガ、特ニ水産科ヲ設クル理由ハ、ドウ云フノデスカ

○政府委員工学博士真野文二君 水産講習所ノ方ハ、水産ノ練習試験ニ関スル事務ヲ致スノデ、人物養成ハ主ニ

ナツテ居ラヌカラ、学校ノ方デ新人物ヲ養成スルトハ、  
趣意ガ違ツテ居リマス、且尚議會ヨリ御決議モアツテ、  
水産高等教育機關ヲ作り、智識実習共ニ兼備シタモノヲ  
養成スルハ、極メテ必要ト認メタノデ、又講習所ハ東京  
ニアリ、北海道トハ方面モ異ニシ、樺太ハ既ニ我領土ト  
ナリ、益々北海道方面ノ漁業ハ範圍ガ拡大シタノデ、東  
京方面トハ漁業ノ種類モ異リマスカラ、愈々急務ナリト  
認メタノデアリマス、尚御質問中ニ札幌、駒場両農学校  
ノ軋轢云々ノ御話ガアリマシタガ、出身者ハ自分ノ学校  
ヲ宜イト思ヒ、前卒業生ハ後進者ヲ引キ立テルト云フコ  
トカラ、或ハ主義ヲ過度ニ進メタタメ、軋轢ガアルヤウ  
ニ見エルカ知レマセヌガ、今日ニ於テハ認メテ居リマセ  
ヌ、發達ヲサセルタメニ競争スルナラ、競争ハ極メテ宜  
イト思ヒマス

○川原茂輔君 スルト農商務ノ方ハ十三万余円ヲ増シテ  
モ、御説明ノ如キ目的ハ達シラレナイノデスカ、其目的  
ヲ達スルコトガ出来ナイト云フ訳ニナリマスカ

○政府委員工学博士真野文二君 講習所ノ方ハ今御話シ

シマスヤウニ主意ガ伝習及試験ト云フコトデアリマスル  
カラシテ、同じ目的デナイノデゴザイマス、デ此講習所  
ト試験所ト云フヤウナモノハ、尚低イ程度ニ於テモゴザ  
イマス、水産試験所トカ、或ハ水産講習所ト云フモノハ、  
農商務省所管ニモゴザイマス、矢張ソレニ対シマシテ、  
人ヲ造ルト云フ方ノ上ニ於テ、文部省所管ニ水産学校ト  
云フモノガゴザイマス、又各地方即チ府県ニモ試験所ト  
カ伝習所トカ云フヤウナモノガ、農商務所管ニ屬シテ、  
府県ニモアルノデゴザイマス、文部省ニモソレニ対シマ  
シテ、矢張農業ノ講習学校、又ハ農業補習学校ト云フモ  
ノモゴザイマス、又工業学校徒弟学校ト云フモノガ文部  
省所管デアリマス、農商務省ハ工業試験所ト云フモノガ  
アリマス、ソレト丁度同じヤウナ區別デゴザイマシテ、  
唯少シク程度ガ高イノデゴザイマス農商務省ニ講習所ガ  
アル、文部省ニ高等ナルトコロノ水産学校ガ出来ルト云  
フコトデ、同じヤウナ區別ガアル、是マデハ水産教育ハ、  
他ノ教育ニ比シテ余程遅レテ居リマシテ、水産ノ教育ノ  
今ノ有様ヲ申上ゲマスト云フト、水産学校ト申シマスモ

ノハ、漸ク九校デアルト思ヒマス、又水産ノ補習学校ハ八校アルト考ヘマス、其上ノ教育機関ト云フモノガ、欠ケテ居ルノデアリマスカラ、目下ノ急務デアル

○川原茂輔君 ソレハ文部省ノ管轄内ニナリマスカ

○政府委員工学博士真野文二君 サウデゴザイマス、尚此水産学校ノ教員ト云フヤウナモノモ、矢張ヨク高イトコロノ学校デ造ラナケレバナラヌノデゴザイマス、其機関ガ今欠ケテ居リマスタメニ、府県ノ水産学校ト云フモノモ、教員其人ヲ得ルノニ余程困ツテ居ルノデゴザイマス、今度斯ウ云フコトガ出来マスト云フト、一面ニ於テハ水産教育ニ従事シマストコロノ人モ出来マスシ、其内カラシテ低イ程度ノ水産学校ノ教員ナルモノモ養成スルコトガ出来ヤウト思ヒマス

○横井時雄君 サウシマスト学校ノ教員ヲ造ル、又ハ水産上ニ関スル研究ヲ為スト云フコトガ主デアルノデスカ

○政府委員工学博士真野文二君 イヤサウジヤナイノデス、研究ハ勿論シナケレバナリマセヌ、又実験ト云フコトモ、勿論試験ト云フコトモシナケレバナリマセヌケレ

ドモ、此学校ハ他ノ学校ト同シヤウニ、矢張世ノ中ニ出マシテ水産教育ニ従事シテ働ク人ヲ造ルト云フノガ主デゴザイマス

○横井時雄君 ソレデハ水産技師ト云フヤウナモノヲ造ルノデスカ

○政府委員工学博士真野文二君 サウデゴザイマス、他ノ学校デモサウデアリマスカ、其卒業シマシタ内ニハ、自分ハ教員ニナリタイト云フ者モ、自然ニ出来ルダラウト思ヒマス

○横井時雄君 ドレ位在校生ガゴザイマスカ

○政府委員工学博士真野文二君 入学生ハ、年ニ六十人募リマス考デゴザイマス、無論ハソレニ応募ルトコロノ応募者ガ余程多イト云フ考デゴザイマス、水産講習所ナドハ今十倍カラノ応募者ガゴザイマスカラシテ、人ヲ得ルコトニ於テハ少シモ困難ハゴザイマスセヌ

○横井時雄君 教員ヲ得ルニハ困難ハアリマセヌカ

○政府委員工学博士真野文二君 ソレハ留学生ヲ出ス積デゴザイマス、逆モ高イ程度ノ学校ノ教員ト云フモノハ



今ハ無イノデゴザイマス、ドウシテモ留学ヲサセナケレ  
バナリマセヌ

○横井時雄君 ソレマデハ……

○政府委員工学博士真野文二君 サウシテ開校ヲ致シマ  
スノガ四十年ニ成リマスカラ、出来得ルダケ早ク落成ヲ  
致シマシテ、又専門ノ学科ヲ教エマスノハ学校ガ開ケマ  
シテ、一年位ハ三年ノ程度ニ致シマスレバ、初メノ一年  
ハ迎モ専門ニ入りマセヌ、二年バカリノ間ガアリマスカ  
ラ、其間ニ留学生モ帰ルト云フコトニ成リマス

○横井時雄君 留学生モ其教員デ兼ネラレル人ガアリマ  
スカ

○政府委員工学博士真野文二君 動植物ハ、最モ水産学  
校デハ必要ナ学科デアリマスカラ、ソレニハ札幌農学校  
ニハ有名ナ動植物ノ教授モアルモノデアリマスカラ、サ  
ウ云フ場合ニ於テモ、余程利益デゴザイマス、札幌農学  
校ノ方ニ附属スルト、実習ノ点ニ於テモアノ辺デアリマ  
スト都合ガ宜シイシ旁々……

○横井時雄君 札幌デスカ、小樽デスカ、

○政府委員工学博士真野文二君 学校ハ札幌ニ置キマシ  
テ、其实習地、実験所ト云フヤウナモノハ、マダ場所ハ  
定メマセヌガ、イズレアノ海岸ニ置ク積デゴザイマス

○川原茂輔君 今一ツ御尋シマスガ、水産学校ノ北海道  
其他ニアル其教員ハ、詰リ農商務省ノ水産講習所出ノ者  
ガ教員ニ成ツテ居リマスカ

○政府委員工学博士真野文二君 今ノトコロデハ文部省  
ノ補給生ト云フモノガ置イテアリマス、講習所ニ委託シ  
マシテ、補給ヲシテ、講習生ノ内ヨリ——学生ノ内ヨリ  
教員希望ノ者ヲ募リマシテ、ソレガ今デハ学校ノ教員ヲ  
致シテ居リマス

○川原茂輔君 此金ノ事ニ付イテ今一ツ御尋シマスガ、  
此二十六枚目ノ裏ニアル、第六項札幌農学校五万三千十  
円、昨年ハ四万四千七百六十七円、五千五百四十三円ノ  
増ト云フコトニナツテ居リマスガ、此増シマシタノハ、  
札幌農学校ニ水産学教諭ヲスルタメニ増シタノデスカ、  
他ニ理由ガアリマスカ

○政府委員松村茂助君 御答致シマスガ、札幌農学校ハ

是マデ教員ガ足りマセヌカラシテ、其方ノ教員ヲ増ス必要ガアルシ、是ハ学科新設ノタメニ教員ヲ増ス必要ガアツテ、双方デ五千某ト云フモノニナツテ居ルノデス、其内訳ヲ申上ゲマスト、水産学校ノ方デハ、差当リ三人置カウ……

○川原茂輔君 金ダケドウゾ仰ツテ戴キタイ、水産ニ関スル——ソレニ関係スル増シタ金ダケヲ、五千五百四十三円ノ内訳デスヨ

○政府委員松村茂助君 千五百円

○川原茂輔君 千五百円ガ六十人ノ生徒ヲ養成スル水産学校ノ教員ノ給料デスネ

○政府委員松村茂助君 是ハ四十年ノ四月カラ、水産学科ト云フモノヲ開設スルノデアリマスカラシテ、詰リ三十九年度ニ於テ、水産学科ヲ開設スル準備ノタメニ教員ヲ置ク、又ソレニ必要ナ費用ヲ請求シテアルノデアリマシテ、是ガ愈々完成スルコトニナリマスレバ、四五万ハ殖エル訳ニナルノデス

〔後略〕

一〇二一

北海道大学設立費寄付に関する札幌区会議事

一九〇六年十一月一日

「区会決議録 明治三十九年」(二〇二一—

一八三五、札幌市公文書館蔵)

第四十二回札幌区会議録 明治三十九年十一月一日

十一月一日午前十一時十五分開会

午前十一時二十分閉会

議件

一 北海道大学設立費寄付ノ件

〔中略〕

議長(山崎議員) 第一号議按ヲ議題トスヘキコトヲ宣告ス

番外一番(河田助役) 本按ハ重大事件ナルモ内様ハ既ニ

議員諸君ノ諒知セラル、モノナルヲ以テ別段説明セズ

廿二番(村田不二三) 本按大学設立ノ件ハ当区年来ノ

宿望ニシテ関係諸氏カ尽力ノ結果其設立ノ曙光ヲ認ム

ルニ至リタルハ大ニ喜フ所ナリ而シテ本道大学ノ設立ハ独リ札幌区ノミナラズ又北海道ノミナラズ実ニ帝国学界前途ノ為メニ慶賀スヘキモノニシテ直接物質上ニ利益ヲ受クルハ勿論又精神上ノ利益モ多大ナルヘキヲ信ス此挙ニ対シ当区ハ拾万円ノ寄付ヲ為シ其設立ヲ輔ケントスルハ洵ニ名譽事ナリト云ハサルヘカラス故ニ本按ハ読会ヲ省略シ原按ノ可決確定ヲ望ム

賛成ノ声起ル

議長（山崎議員）廿二番ノ説ニ賛成者アリ別ニ異議ナシト認ムルヲ以テ本按ハ原按ヲ可決確定スト告ケ閉会ヲ宣ス

〔後略〕

〔別紙〕

第一号議按

北海道大学設立費寄付ノ件

北海道大学設立費ノ内、明治四十年ヨリ同四十二年マテ三ケ年分ニ於テ金拾万円ヲ寄附スルモノトス

理由

当区カ積年ノ宿望タル北海道大学設立ノ件ハ目下政府ニ於テ着々進行ノ由就テハ弥之ヲ実施セラル、ニ於テハ当区ノ公益多大ナルヘキヲ以テ其設立費ノ内、寄付セントシ本按ヲ發シタル所以ナリ

明治三十九年十一月尅日提出<sup>註</sup>

〔注〕欄外に朱書きで「原按可決確定」と書き込みあり。

新設大学と古河家

一九〇六年十二月七日

『報知新聞』

○新設大学と古河家

此度新たに東北帝国大学農科大学を札幌に東北帝国大学  
 理科大学を仙台に工科大学を福岡に置かるゝことに定ま  
 りたるに就き古河鋳業会社社長古河虎之助氏は以上三大学  
 に必要なる建物（此建築費総計百六万円）を四十年度よ  
 り向ふ五ヶ年間に建築完成し其筋へ献納することとなり  
 六日其許可を受けたり是れ当主虎之助氏が高等教育の普  
 及に熱心なるに依ると雖も亦実と同氏の養父故潤吉氏及  
 先代故市兵衛氏が夙に學術教育の振暢に貢献せんとする  
 の素志を果したる次第なりと今其願書及指令書附属命令  
 書を左に掲ぐ

献納願

今般政府に於て福岡に工科大学仙台に東北帝国大学理

科大学、札幌に東京帝国大学農科大学御設置可相成御  
 計画有之趣承り候に付右に要する建物貴省御設計の通  
 り建築致し且つ貴省御指定の年限内に落成献納致度尚  
 右御許可の上は建築工事に關する一切の事務は貴省に  
 於て御引受被下度之に要する経費は現金を以て納付可  
 致候

右献納御許可相成度此段奉願候也

明治三十九年十二月三日

東京市日本橋区瀬戸物町七番地

願人 古河虎之助

同市神田区駿河台北甲賀町十六番地

右後見人 木村長七

文部大臣牧野伸頭殿

文部省文書課午雜令二九八号

明治三十九年十二月三日付献納願の趣聞〔ママ〕届候条左記

命令書の通心得請書提出可被成候也

明治三十九年十二月六日

文部大臣 牧野伸頭

古河虎之助殿

右後見人

木村長七殿

命令書

一、建築に要する経費は九十八万七千七百三十九円にして其内訳左の通  
福岡工科大学建築費六十万八千五十円

内訳

(一) 土木機械教室	二階四〇〇	二階五〇	一八八、七〇〇
	平家一三五	平家三〇〇	
(二) 採鉱冶金教室	平家三〇〇	平家二七〇	一一五、一〇〇
(三) 電気工業教室	平家四六〇	平家二〇〇	一〇三、七五〇
(四) 応用化学教室	平家五三〇	平家四七七、五	二〇〇、五〇〇

東北帝国大学理科大学建築費廿四万四千百七十円

内訳

木造	煉瓦造	工事費
平家二八七	平家 二八	

(一) 教室

二階三六七

二階 四〇〇

二階二八一

二四四、一七〇

東北帝国大学札幌農科大学建築費十三万五千五百十九円

内訳

木造

煉瓦造

〔工〕事費

一 大学予科及実科教室

二階二二〇

平家一三〇

……

四三、一五〇

一 農芸化学教室

平家二六五

……

三二、〇五〇

一 林学教室

平家二〇五、五

二階 二二〇

三一、三九〇

平家一一〇

一 畜産教室

平家三二一

三階 二二〇

二八、九二九

二 落成期限は明治四十年四月一日より向五ヶ年と被致度事

三 建築工事に關する一切の事務は当省に於て出願の通可引受に付右に要する經費六万九千百三十七円は現金を以て明治四十年四月一日より向五ヶ年間に初年より第四年までは毎年一万三千五百円第五年に一万五千百卅七円を毎年四月一日に納付可相成事

四 第一項建築に要する經費年割額は二十二万円を超過せざる事但最後の年割額は此の限にあらざる事

五 第三項の事務費は工事終了まで順次繰越使用すべき事

一〇一三

田中義麿日記(寮名、寮歌の決定)

一九〇七年三月二十六、三十一日、四月一、四日

田中義麿「未央手記 第貳卷」

夜開識社例会

予庶務委員ノ故ヲ以テ会ヲ可ル

七時開会

山下海

五味誠吾君

誠心誠意

板倉勝則君

健全ナル体格ノ必要

岩崎四郎作君

予ノ寄宿舎生活觀

大竹温孝君

(附札幌ヨリ函館迄徒歩旅行談)

訓示

森本厚吉先生

如何ニシテ春季休業ヲ送ル可キカ

(附独乙学生ノ話)

時任一彦先生

武士的精神ヲ持テ

橋本左五郎先生

等ノ演説及訓示アリ

次イデ応募寮歌及寮名ノ披露ヲナシ多数決ニヨリテ委員

附托ニ決ス

寮歌選定委員如下

40 田中義麿

18 高松正信

Mar. 26 Tues.

雪 積ルコト数寸、半ハ融ク

一般ノ第二学期試験ハ本日ヲ以テ終了ス

吾級ハ本日ヨリ休暇ニ入ル

午前図書館ニ至リ卒業生等ノ論文ヲ涉獵ス

苅宿幸次郎 北海道蚕業經濟論

豊田熊太郎 日本蚕業ノ經濟的觀察

ノ二論文ヲ借りテ帰ル

苅宿氏ノ論文ヲ読ム

「猫」(漱石) 中編ヲ読ム

午後横山君ヲ訪フ不在

帰舎セル後幾千ナラズシテ横山君未訪 明日定山溪行ノ

相談ヲナス

16 鳥海二郎

12 大久保敬

12 早川直瀬

次イデ寄宿舎委員ノ改選ヲ行フ

其結果下ノ如シ

34 田中義麿

32 鳥海二郎

18 行田又三郎

25 伊藤章

23 松枝邦太

是ニ於テ茶菓ヲ饗シ其尽クルニ及ビテ散会(十時五十分)

散会後会計ノ整理及明日ノ準備ノ為就床一時半ニ至ル

〔中略〕

Mar. 31 Sun.

苜宿氏ノ卒業論文ヲ読ム

午後新居湘香先生ヲ訪ヒテ吾寄宿舎ニ附クベキ命稱ヲ請

ヒテ四種ヲ得タリ即下ノ如シ

猶興(雖無文王、)

有隣(徳不孤必、)

有恒(有恒難哉)

恵迪(、、吉)

夜試ニ寮歌一篇七節ヲ草ス数時ヲ費シテ僅ニ成ル

此夜余興委員会アリ其委員下ノ如シ

松枝 鳥海

平野 早川

富尾 桑畑

野田 吉益

Apr. 1. Mon.

苜宿氏ノ論文ヲ読ム

午前大竹君ヲさのやニ訪フ在ラズ

午後六時二十分停車場ニ島田五郎君ノ帰国ヲ送ル

夫ヨリ転ジテ北十三西四ナル大竹君ノ新居ヲ訪ヒ明夜寮

歌委員会ヲ催スコトヲ告グ



Apr. 2. Tues.

論文ヲ読ム

午後横山君来訪　夕飯ヲ饗ス

夜寮歌及寮名選定委員会ヲ開ク

少シク遅レテ大竹君モ出席ス寮名ハ種々討議ノ末猶興及  
恵迪ノ中一ヲ撰ベキコトニ一致セシモ二者ノ撰撰ニ就  
キテハ異論紛々容易ニ帰着セザリシガ遂猶興ナル文字ハ  
目下中央政界ノ一団体ノ名称タルノ故ヲ以テ之ヲステ、  
「恵迪寮」ノ名ヲ用フルコトニ決定ス

寮歌ニ至リテ更ニ困難ニシテ三篇ノ応募寮歌中ヨリ予ノ  
起草セシモノヲ採リ之ヲ骨子トシテ多少ノ修正ヲ加フル  
コトトセシガ沈案苦吟佳句ヲ獲ルコト真珠ヲ探ルヨリモ  
難ク一節一時ヲ費シテ尚成ラズ大竹君ハ時晩ケレバトシ  
テ辞去リ高松、早川二子ハ楽譜ノ撰定ニ着手セントテ去  
リ残ルモノハ大久保、鳥海及予ノ三人ノミ鼎坐シテ互ニ  
相見黙々トシテ容易ニ語ラス時空シク移リ未完璧ヲ成  
サバルニ既二十二時ヲ過グ乃之ヲ明日ニ譲リテ会ヲ散ズ

Apr. 3 Wed. 神武天皇祭

快晴　風ナク日暖ニシテ春光自人ノ襟ヲ開カシム　此佳  
辰ニ方リ此好天氣ニ遭フ　満都ノ士女氣モソバロニ行交  
フ人々平日二十倍セリ

此日遊園地ニ於テ永ク物議ノ種タリシ大迫將軍銅像ノ除  
幕式アリ

午前大久保君ト昨夜ノ後ヲ繼ギテ寮歌ノ改作ニ従事ス  
十一時頃堤君ト全郷ノ人古畑惣吉（歩兵廿五連隊一中隊  
二等卒）ナル者過日堤君ノ手ヲ経テ予ノ許ニ送付シ来レ  
ル金子ヲ受取ラントテ来訪仍ツテ相伴ヒテ郵便局ニ至リ  
為替金ヲ受取り之ヲ与ヘテ袂ヲ分チ帰ル

午後再大久保君ト会シ寮歌ノ修正ニ從ヒ漸クニシテ成ル  
入浴

食後富士ヲ訪ヒ頃日堤ヨリ送り越セル竹製蚕網ノ一枚ヲ  
贈リ暫時談話

夜音楽室ニ於テ寮歌ノ譜ノ制定ニ就キ高松、早川ノ諸君  
ト相計ル

鈴木国太郎君会報編輯ノ件ニ就キ来訪

Apr. 4 Thur. 曇 微雨

唱歌筆記、高松君等ノ尽力ニヨリ寮歌ノ楽譜成ル（昨日

作リタルモノハ反对者多カリシ為全ク改変セリ）

午後早川君卜寮歌（并ニ譜）ヲ謄写版印刷ニ附シ舎生一

同ニ配布ス

〔後略〕

一〇一四

生徒募集

一九〇七年五月十三日

『官報』

○生徒募集

本年九月入学セシムヘキ予科第一級生徒百人、農学実科、林学科及土木工学科第一級生徒各三十人ヲ募集ス志願者ハ左記ノ各項ヲ心得願出ツヘシ

明治四十年五月

札幌農学校

一 本校ハ本年九月ヨリ帝国大学農科大学トナルヲ以テ本年募集スル予科生ハ入学ノ時ニ於テ大学予科生トナルヘシ

二 右大学予科ハ高等学校大学予科第二部ト其程度ヲ同シクシ修業年限ハ三箇年トナルヘシ

三 大学予科卒業者ハ本校ニ開始スヘキ農科大学農学科、農芸化学科、畜産学科、林学科ノ一二進入スルモノトス

四 右大学諸学科ノ修業年限ハ三箇年トナルヘシ

五 農学実科ハ修業年限三箇年ニシテ専ラ実習ニ重キヲ置ク

六 本年募集スル林学科及土木工学科ハ従前ノ課程ト異ナルコトナシ

七 中学校ヲ卒業シタル者若クハ専門学校入学者檢定規程ニ依ル檢定ニ合格シタル者ハ大学予科、農学実科、林学科及土木工学科第一等級へ入学ヲ許ス

八 前項志願者予定人員ニ超過スルトキハ選抜試験ヲ施行シ合格者ニ入学ヲ許ス

九 選抜試験科目ハ 国語漢文 数学 英語 動物学 植物学 化学 物理学トス

試験期日及施行地 本年七月十五日ヨリ札幌（本校）及東京ニ於テ施行ス

但シ東京ニ於ケル試験場及試験日割等ハ来ル六月二十五日後各志願者ニ通知ス

出願期日 入学志願者ハ来ル六月二十五日マテニ本校ニ到達スヘキ見込ヲ以テ入学願書ニ履歷書中学校長ノ卒

業證書若クハ専門学校入学者檢定規程ニ依ル檢定合格

證書写、体格檢査証、写真及入学手数料金三円（印紙入

ヲ許）ヲ添へ本校ニ差出スヘシ

（但シ写真ハ手札形（台紙ニ貼附）ニシテ出願前六箇月

以内ニ撮影裏面ニ氏名及撮影ノ年月日ヲ記スヘシ

〔後略〕